



アルテピア

一般
社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025
http://www.artepia.or.jp



アルブレヒト・デューラー《聖エウスタキウス》

1501年頃 エングレーヴィング・紙 35.7×25.9cm (北海道立近代美術館蔵)

ドイツ・ルネサンスを代表する画家、アルブレヒト・デューラー(1471-1528)は、油彩画のみならず版画や素描でも多くの名品を残した。本作は初期の版画作品で、彼の銅版画の中では最も大きい。

聖エウスタキウスは古代ローマ帝国時代の伝説上の人物で、元はブラキドゥスという名の将校であった。

ある日、森の中で狩りをしていたところ、追っていた牡鹿の角の間が輝きだし、そこに磔刑のキリストを見た。ブラキドゥスはすぐさま家族とともにキリスト教に改宗し、ギリシャ語で「幸運」を意味するエウスタキウスに改名、後に狩猟の守護聖人として親しまれるようになった。

本作はエウスタキウスが体験した幻視の場面が主題であり、ひざまずいて驚きの表情を浮かべる彼の視線の先には、角の間に小さなキリスト像を掲げた牡鹿の姿

が見える。動物の毛並み、樹木の幹や葉、地面に転がっている石や湖の水面など、それぞれ質感を変え、細部まで徹底して描かれていて、デューラーの卓越した描写力がうかがえる。

画面上では科学的理論に基づいた遠近法や人体比例の手法が駆使されていて、デューラーが研究したイタリア・ルネサンスの影響があらわれている。また、牡鹿はエウスタキウスが伴う馬の奥に位置し、むしろ手前の馬のほうがこの作品にとって重要なテーマであるかのようにさえ見える。これは本作が制作された頃、デューラーが人体比例論とともに馬体の比例論にも強い関心を抱いていたためであろう。

(北海道立近代美術館学芸員 寺地亜衣)

放蕩の画家 パスキン展

「さよなら、リュシー」愛のメッセージ

北海道立釧路芸術館学芸課長 光岡 幸治 9月5日(金)～10月19日(日)



図1《二人の少女》1907年 ボンビドゥー・センター蔵
©Centre Pompidou, MNAM- CCI, Dist.
RMN-Grand Palais/ Bertrand Prévost/
distributed by AMF

ブルガリア生まれで、エコール・ド・パリ(パリ派)を代表する画家ジュール・パスキン(1885-1930)。本格的な回顧展として企画された本展は、パリ市立近代美術館やボンビドゥー・センターをはじめとするフランスの美術館、欧州各地の所蔵家、ならびに国内の美術館の所蔵品によつて構成されています。旅に生き、また波乱に満ちた人生を送つた画家の、人と芸術を心ゆくまでお楽しみください。

パリ以前

ウイーンで中等教育を受けたパスキンは、その後まもなく素描の才能を発揮しました。そして1903年には、ミュンヘンに移り、風刺雑誌『ジンプリツィムス』専属の挿絵画家となつていきました。ユーモアと批判精神を表現した挿絵は高い評価を得ますが、その一方アカデミックな描写も自在にこなす力を備えていたのです。

最初のパリ時代

パスキンがパリに移つたのは1905年、20歳の時でした。



図2《エルミーヌ・ダヴィッドの肖像》1908年 グルノーブル美術館蔵
©Musée Grenoble

パリでも少しは名が知られていたパスキンは、国際色豊かなこの「芸術の都」にすぐに馴染んでいきました。常連として通つたモンパルナスのカフェは、画家たちが集う交流の場であり、芸術の拠点でした。パスキンの関心は常に人間で、人々の日常をみつめ、鋭い観察眼で素早く描きとどめました。《二人の少女》(図1)は『ジンプリツィムス』に寄せた風刺的な水彩画ですが、単身、あるいは二、三人をモデルとするパスキンの油彩女性像の

原点が示されているといえます。

1906年には、後に妻となる画家のエルミーヌ・ダヴィッドと出会いました。《エルミーヌ・ダヴィッドの肖像》(図2)は、パスキンが油彩画に着手した頃の一点で、まだきこちなさを残しています。

また1910年には、画塾でモデルをつとめていたリュシーとも出会っています。彼女は後年、パスキンの愛人として画家の人生を決定づける運命の人なのです。

アメリカ時代

1914年、第一次大戦の戦火から逃れるため、パスキンはニューヨークに移りました。その前年、現代美術の国際展、アーモリー・ショーに出品したパスキンは、ここでも注目を集めたのです。

パスキンは、冬季のニューヨークの寒さに耐えかねて、エルミーンとともに、温暖なキューバやアメリカ南部で過ごしました。画家は、その地で暮らす人々の生活や移ろいゆく風景をこれまでにはなかった明るい色彩でとらえ、地域色を色濃く映し出しています(図3)。



図3《キューバでの集い》1915/17年 個人蔵

パリに戻って

—終焉の地

1920年には、6年間のアメリカ滞在を終え、パリに戻りました。フォル・エボック(狂乱

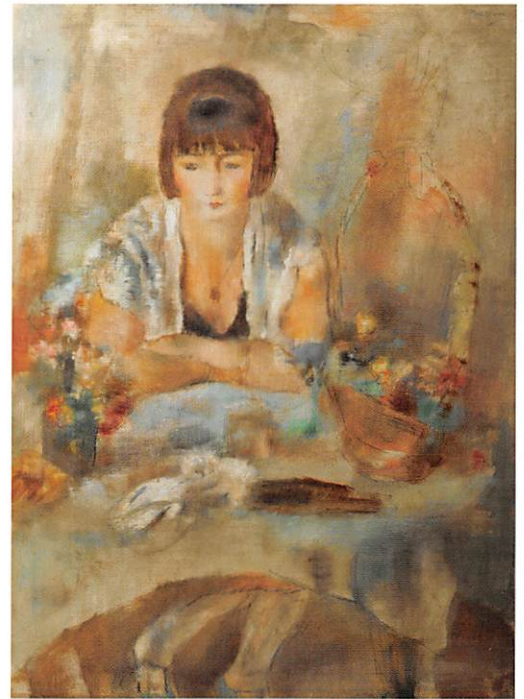


図4《テーブルのリュシーの肖像》1928年 個人蔵

の時代と呼ばれたこの時期、絵の制作に没頭するも、夜ごとに華やかな生活を続けました。

同年、10年ぶりにリュシーと再会を果たしたことが特筆されます。二人は互いに激しい恋に落ちたのです。リュシーはすでに画家ペール・クロークと結婚し、息子もおり、それは道ならぬ恋でした。

《テーブルのリュシーの肖像》(図4)は、数多いリュシー像の中でも白眉といわれている名品です。柔らかな空気に包まれ、ほのかに彩られた部屋の中で、物思いに耽っているリュシーに向けたパスキンの優しい眼差しを感じさせます。

パスキンの油彩画は、妻のエル

ミーヌや愛人のリュシーを描いた肖像のほか、少女像、裸婦像といった女性像が大部分を占めています。こうした絵のモデルたちにもパスキンは愛情を注ぎ、時にはアトリエに住まわせ、享楽を共にしました。そしてあなたを視線で見つめ、

内面までの確にとらえました(図5)。

繊細な描線が真珠母色の淡い色彩の中に息づく画風を確立したのは、1924年頃のことです。「真珠母色の時代」といわれ、いよいよパスキンの画業は頂点に達したのです。

その一方で、乱痴気騒ぎに明け暮れ、また生来の自由人であった自身の生き方に対する苦悩とリュシーとの確執から、身の破滅へと向かって行きました。そして「さよなら、リュシー」という「愛のメッセージ」を残し、45歳で自ら命を絶つたのです。



図5《二人の眠る少女》1927年 ポンビドー・センター蔵 (カンティーニ美術館に寄託) ©David Giancattarina

放蕩の画家 パスキン展

「さよなら、リュシー」愛のメッセージ

北海道立釧路芸術館

9月5日(金)～10月19日(日)

生誕100周年

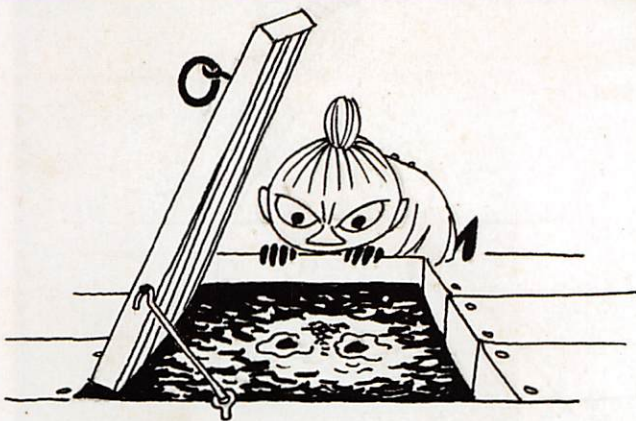
トーベ・ヤンソン展

ムーミンと生きる

2014年12月13日(土)～2015年2月15日(日)

北海道立帯広美術館

2014年は、「ムーミン」シリーズの原作者として知られるトーベ・ヤンソン（1914～2001年）の生誕100年。それを記念して、ムーミン関連のイベントが日本各地で開かれています。トーベ・ヤンソンの祖国フィンランドでも、国立アテネウム美術館（ヘルシンキ）でトーベの全貌を紹介する大回顧展「TOVE JANSSON」(2014年3月～9月)が開催中です。ムーミンの生みの親として世界的に有名なトーベですが、フィンランドにおいては、画家、小説家としても高い評価を得ているのです。当館で12月から開催する「トーベ・ヤンソン展ームーミンと生きる」は、この国立アテネウム美術館の大回顧展を日本版にアレンジして国際巡回する展覧会になります。

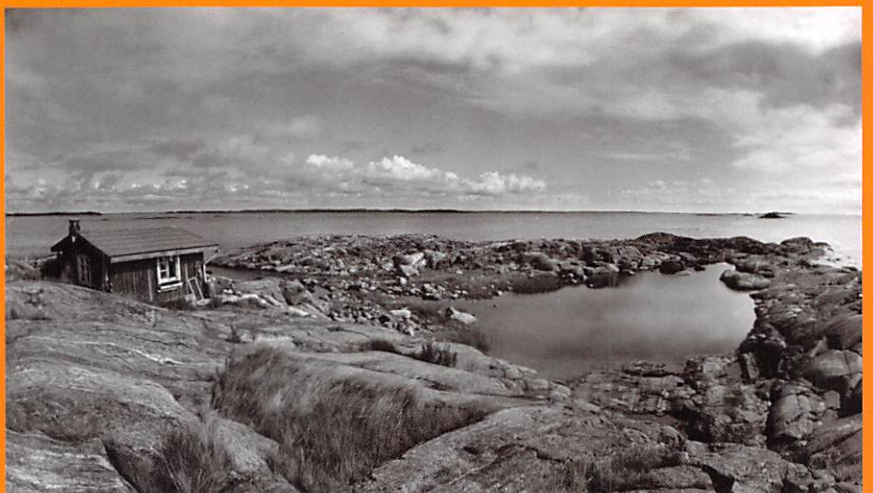


トーベ・ヤンソン<「ムーミン谷の夏まつり」のためのイラスト>1954年
タンペレ市立美術館ムーミン谷博物館蔵 ©Moomin Characters™

トーベ・ヤンソンは、フィンランドの首都ヘルシンキで、父が彫刻家、母は画家という芸術一家に育ちました。15歳で風刺雑誌の挿絵画家としてデビューするなど、早くからその才能を開花させ、31歳の時に「ムーミン」シリーズの最初となる「小さなトロールと大きな洪水」を刊行しました。以来、86歳で世を去るまで多彩な創作活動を続けました。本展では、「ムーミン」の挿絵原画のほか、生涯を通じて挑戦し続けた油彩や、「不思議の国のアリス」などの挿絵、貴重な写真資料や映像資料など約2000点を紹介します。

精神的な豊かさを尊び、孤独を最高の贅沢としたトーベ・ヤンソン。その精神世界に触れるべく、本展では、彼女が最も大切な場所としていた「夏の家」を実物大に再現して展示します。「夏の家」とは、フィンランド湾にある岩だらけの小さな孤島に手作りして建てた小さなアトリエです。電気も水もないその島で、トーベは、1964年から91年まで毎年、夏の数ヶ月を過ごし、制作に打ち込みました。北欧の風土に根ざしてムーミンを生み出し、ムーミンとともに生きたトーベ・ヤンソンの創作の秘密に迫ります。

(北海道立帯広美術館学芸課長 五十嵐聡美)



ペル・ウロフ・ヤンソン
<クルーヴ島(ハル)>/トーベは、1964年、この島に小屋を建て、毎年ここで夏を過ごした。通称「夏の家」。

MUSEUM CALENDAR

2014.9～2015.3

美術館のおもな展覧会ご案内

	9	10	11	12	1	2	3	
近代美術館	9/6(土)～10/26(日) アートと旅する500年 デューラー、ムンク、フジタ、難波田…	11/12(水)～11/24(月) 北海道書道連盟 創立60周年記念展	12/20(土)～2015年1/18(日) 冬のワンダー☆ ミュージアム 2015	1/31(土)～3/22(日) もうひとつの眺め 北海道発:8人の写真と映像				
	～9/28(日) 札幌国際芸術祭 2014 「都市と自然」	11/1(土)～11/9(日) 主体美術50周年 記念展	12/20(土)～4/12(日) ・生誕100年記念 小谷博貞・絵画の冒険 ・冬季名品選 シヤガール《パリの空に花》他					
	～9/28(日) 夏季名品選 ガレ《ガラス工芸風景文花器》他	10/11(土)～11/24(月) ・山内弥一郎 温雅なる風景 ・日本のガラス造形 7人の先駆者たち ・秋季名品選 岩橋英道《道産子追憶之巻》他	TEL 011-644-6883 近美札幌 検索					
美三岸好太郎美術館	9/6(土)～10/19(日) 特別展 三岸好太郎と池田満寿夫 奇才アーティストの系譜	11/1(土)～1/18(日) 所蔵品展 第3期 エキゾチック・サツポロ	1/24(土)～3/26(木) 所蔵品展 第4期 音楽のある美術館6					
	TEL 011-644-8901 三岸美術 検索							
旭川美術館	8/30(土)～10/19(日) 水野美術館所蔵 日本画の巨匠たち 横山大観から平山郁夫まで	10/30(木)～3/8(日) 感じるからだ	3/21(土)～3/29(日) 純生美術会 創立70周年記念企画展					
	～10/19(日) 木をつかうくらし 織田コレクションを中心に	10/30(木)～3/29(日) [平面×立体]対決! あなたが選ぶお気に入り	TEL 0166-25-2577 旭川美術 検索					
函館美術館	9/13(土)～11/7(金) 魯山人の宇宙展	11/15(土)～1/21(水) 一浮世絵・雑誌・絵はがきに見る一 幕末・明治の戦争イメージ	1/30(金)～2/1(日) 教育大函館校 創立百周年記念 美術・書道展					
	～11/7(金) 没後20年 国松 登	11/15(土)～2/1(日) 前衛の息吹 書と前衛	2/7(土)～4月上旬 ミュージアム・コレクション スペシャル 北のイメージ 大気・水・森	TEL 0138-56-6311 函館美術 検索				
帯広美術館	～9/24(水) 大正ロマン 昭和モダン展	10/3(金)～12/3(水) 中谷有逸展	12/13(土)～2/15(日) 生誕100周年 トーベ・ヤンソン展 ムーミンと生きる	2/24(火)～3/31(火) バルビゾン 19世紀の絵画と写真				
	～9/24(水) 写真～ アート	10/3(金)～12/3(水) 麗しき女性像	12/13(土)～3/31(火) 井田照一展 接点としての版画	TEL 0155-22-6963 帯広美術 検索				
釧路芸術館	9/5(金)～10/19(日) 放蕩の画家 バスキン展 「さよなら、リュシー」愛のメッセージ	10/31(金)～1/21(水) ★やなせ たかし★展★ みんなだいすき! アンパンマン	1/30(金)～3/25(水) 釧路芸術館コレクション・ギャラリー こころの日曜日					
	～9/28(日) 札幌国際芸術祭 2014	10/10(金)～1/18(日) 藤城清治の世界展	12/2(火)～12/21(日) 阿部啓明作品展 空間と平面の発現	TEL 0154-23-2381 釧路芸術 検索				
美札幌芸術の森美術館	～9/28(日) 札幌国際芸術祭 2014 Our Place	10/10(金)～1/18(日) 藤城清治の世界展	1/25(日)～3/29(日) 笠井誠一展					
	～11/3(月・祝) Sprouting Garden—萌ゆる森— 会場:札幌芸術の森園内 関口雄揮記念美術館	10/10(金)～1/18(日) 藤城清治の世界展	1/25(日)～3/29(日) ステイル・ライフ	TEL 011-591-0090 芸術の森 検索				
札幌本郷彫刻美術館 新記念館	～9/28(日) 札幌国際芸術祭 2014 Our Place	10/4(土)～12/7(日) セブン・ストーリーズ	12/13(土)～4/12(日) 彫刻家の頭の中 / In My Room					
	～10/19(日) ミニ・コレクション展 「本郷新と旅」	10/21(火)～4/26(日) 本郷新とレリーフ	TEL 011-642-5709 本郷新彫刻美術 検索					

□ は特別展示室 □ は常設展示室
 ○開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで) ※釧路芸術館(金・土は18:00まで開館)
 ○休館日 ●毎週月曜日(月曜日が祝日又は振り替え休日のときは開館、翌火曜日休館)ただし11月4日は開館(芸術週間)
 ●年末年始(12/29～1/3) ●展示替え期間(展覧会と展覧会の間)
 ※施設により臨時休館、臨時開館の場合もありますので、各施設のホームページでご確認いただくか施設にご確認願います。

※会員証の利用について 貸館の観覧は会員証が利用できない場合がありますので、ご了承ください。

近代美術館

もっぴとつこの眺め

—北海道発…8人の写真と映像
平成27年1月31日(土)～3月22日(日)

この展覧会では、昨今注目される活躍している北海道ゆかりの作家をとりあげ、その多様性にみちた表現を「ご覧いただきます」。北海道立近代美術館では、北海道という広域で活躍する作家たちを調査・研究、紹介することをその使命のひとつとして、これまで「北海道現代美術展」(1977～1981)、「北海道の美術イメージ」展(1982～1987)、「北海道・今日の美術」(1988～1996)などの現存作家の展覧会を開催してきました。本展もこうした活動に連なる展覧会であり、ひさ

しぶりに次代を担うアーティストをとりあげるグループ展となります。しかも、今回は写真と映像にしぼり、時代にくさわしい新鮮な表現の数々を紹介。目を見張るような新鮮な世界像の魅力に、どうぞ浸ってみてください。



露口啓二《2011年 千歳》2011年
作者蔵 Courtesy of Keiji Tsuyuguchi

三岸好太郎美術館

三岸好太郎と池田満寿夫

—奇才アーティストの系譜
9月6日(土)～10月19日(日)

池田満寿夫(1934～97)は、10代で画家を目指して上京、1950～60年代に版画作品が国際展で受賞を重ねて脚光を浴び、その後小説、陶芸など次々と新分野を開拓して、戦後の文化シーンに輝かしい足跡をのこしました。三岸の没年に生まれたため、両者の直接的な接触はありませんが、その感覚的な描写、多方面への関心と才能、激しいスタイルの変貌、表現テーマなどに、本質的に通じ合うものを多々発見することができま

す。共通点として、具象表現へのこだわりが見えてきます。三岸好太郎没後そして池田満寿夫生誕80年の年に開催します本展では、戦前と戦後にそれぞれ独自の表現を広げて花開いた多才(マルチタレント)の芸術家二人の代表的な作風を伝える秀作の展示を通じて、彼らの芸術の軌跡をたどり、多才な二人の創造の多彩な響き合いをぜひ鑑賞ください。



池田満寿夫
《赤い帽子の女》1985年
池田満寿夫美術館蔵

旭川美術館

「感じるからだ」展

10月30日(木)～平成27年3月8日(日)

芸術と「からだ」の関わりは深く、絵画や彫刻においては人の「からだ」をいかに表現するかが大きなテーマのひとつであり続け、また、作品の中には、作家の手の跡や息遣いなど、作家の「からだ」を意識させるものが少なくありません。みる側も、視覚や触覚、聴覚など、自身の「からだ」を介して作品と向き合うこととなります。



舟越桂
〈午後にはガンター・グローブにいる〉
1988年 北海道立旭川美術館蔵

「からだ」をモチーフとした作品、「からだ」が見えてくる作品、「からだ」で感じる作品：本展では、そのように、「からだ」が潜む作品に注目し、当館の所蔵品を中心に、絵画、彫刻、家具などを紹介します。

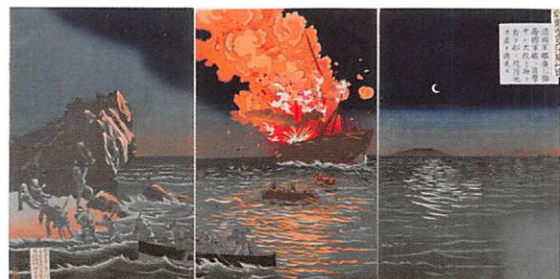
函館美術館

浮世絵・雑誌・絵はがきに見る

幕末・明治の戦争イメージ

11月15日(土)～平成27年1月21日(水)

幕末から明治期にかけて、わが国では幾度かの内戦、戦争を経験します。なかでも、1894年に起きた日清戦争、1904年に起きた日露戦争は、これまでに体験してこなかった国家間の戦争であり、国民の関心が高まり、さらには国家としてそうした戦争をいかに国民に伝えていくかという問題にも突き当たりました。実際にそれらの戦争をビジュアルとして国民に伝えたのは、新たな時代を迎え、その役割を変えてきた錦絵であり、続いて印刷技術の進歩で発達した画報雑誌や絵はがきに利用された写真やリアルな絵画でした。なかでも、写真が持つリアリティは、これまでにないビジュアル体験を見せるものにもたらし、戦争報道のみならずさまざまな分野で新たな視覚文化を広めていきました。



小林清親《朝鮮豊島海戦之図》1894年 函館市中央図書館蔵

本展では、函館市中央図書館が所蔵する戦争錦絵をはじめ、日清、日露戦争を特集した画報雑誌や絵はがきなどを展示し、幕末から明治期にかけて、どのような形で「戦争イメージ」が創り出されていったのか、さらにはそうしたイメージがメディアの多様化とともにどのように変化していったのかを検証します。会期中、展示替えあり

帯広美術館

中谷有逸展 碑を刻み、生命を謳う

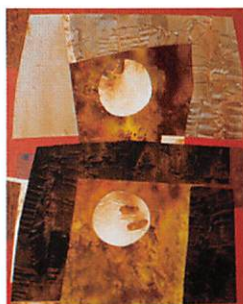
10月3日(金)～12月3日(水)

1936(昭和11)年、札幌に生まれた中谷有逸は、北海道学芸大学札幌分校を卒業後、さまざまな版技法を用いた作品を手がけてきた美術作家です。1972(昭和47)年からは帯広を拠点とし、制作活動に取り組んできました。

1960年代半ば以降、凹凸併用版という独自の技法を駆使しながら『碑』(いしぶみ)と題したシリーズを制作。続いて1990年代半ばからは大画面による大作や複数の技法を併用した複合的な作品を試みると

もに、近年は『古事記』をテーマとした連作を手がけるなど、意欲的な制作活動を続けています。有機的なイメージを思わせるユニークなフォルムや洗練された色使い、表情ゆたかなマティールを特徴とするその作品は、作者特有の造形世界を展開しています。

この展覧会では初期から最近作に至る主要な作品により、その画業を回顧します。



中谷有逸(碑・古事記(二人))
2008年
北海道立帯広美術館蔵

釧路芸術館

みんなだいすき! アンパンマン

★やなせたかし★展★

10月31日(金)～平成27年1月21日(水)

昨年10月に94歳で没したやなせたかし(1919～2013)は、世界の子どもたちにも愛されているヒーロー、「アンパンマン」の生みの親として広く知られています。

やなせは、終戦後、35歳の時に漫画家として作家人生をスタートさせました。しかし、ヒット作に恵まれず、舞台美術や番組構成など、さまざまな仕事に携わる中で、自分を励ますために作詞したという名作「手のひらを太陽に」が生まれました。

「アンパンマン」の誕生は、1969年。自らが戦時中体験した空腹の苦しさが、その発想につながったといえます。当初は「顔をちぎ

るなんて…」と親たちから批判されましたが、自分を犠牲にしても正義を貫くというやなせの思想は、子どもたちに受け入れられていったのです。

本展では、「アンパンマン」の大きな原画をはじめ各種の絵画、絵本原画、イラスト、書などにより、漫画や映像、詩、その他、さまざまな分野において、愛と平和と正義への熱き思いが映し出された、やなせの多様な表現世界を紹介いたします。



やなせたかしとアンパンマン

札幌芸術の森美術館

光と影のシンフォニー

藤城清治の世界展

10月10日(金)～平成27年1月18日(日)

幻想的で美しい影絵で子どもから大人の心を魅了し続ける藤城清治。カミソリと数枚のカラーフィルターを切り抜き貼り合わせて、大きな瞳のこびとや猫、宮沢賢治などの童話、聖書や日本各地の美しい風景を、光と影のメルヘンチックな影絵の世界を創り出します。さらに近年では、東日本大震災後の福島県に赴き、スケッチを重ねて被災地を題材とした作品を手がけています。そこには、人々が災害を乗り越え、未来へ希望を託す藤城の強いメッセージが込められています。

北海道で初めての大规模な展覧会となる



藤城清治《アリスのハート》2005年
©Seiji Fujishiro/HoriPro

る本展では、初期から最近作までの代表的な影絵を中心に青年期の油彩画や北海道でのスケッチなどを含め展示します。自然の美しさ、生きる命の尊さと同時に人生を描きたいと語る藤城にとつて、影絵は「光と影と祈りの芸術」です。今年90歳を迎え、ますます制作意欲にあふれ進化し続ける藤城清治の世界をお楽しみください。

本郷新記念札幌彫刻美術館

セブン・ストーリーーズ

10月4日(土)～12月7日(日)

北海道を拠点に立体表現を手がける7人の作家による展覧会です。彼らの作品は、いずれも豊かなストーリー性を持徴としています。

清涼な空気をまとった石膏の人物像を手がける伊藤幸子、布や糸を素材にしたインスタレーションで小さな存在のかすかな気配を感じさせる樫見菜々子、夢見るような詩的な少女像の権名澄子、精巧な模型を撮影した写真により、非現実の世界をつくりだす坂東史樹、日常的な素材を用い、飄々としてユーモラスな佇まいの人物などを手がける長谷川裕恭、さまざまな感情をたたえた小さな少女たちをつくる経塚

真代、端正な造形により、リアリティックな異世界を生み出す丸岡哲也―7人の作家がつむぎ出す物語世界をめぐめるような鑑賞体験をお楽しみください。

出品作家

伊藤幸子
樫見菜々子
権名澄子
長谷川裕恭
坂東史樹
丸岡哲也



経塚真代《似たもの同士、隣がよく見える》2013年

A・RE・KO・RE information

アートクラブ 2014

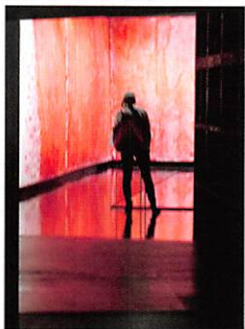
アルテピアでは子どもから大人まで楽しめるワークショップを年3回開催しています。6月7日に行われた『遊びにおいてアート工房・おしゃれプラバン & 小物トレイ』では、プラスチックに描いた絵をオーブントースターで焼いてストラップを作り、参加した親子連れや小中学生など200名がアートなひと時を楽しみました。

- 今後の予定
11月1日(土)
10:00~
(小学生・事前申し込み)
- 2月未定(土)
10:00~
(来館者自由)



札幌国際芸術祭 7/19~9/28

近美会場風景



入口のトンネルを抜けると、炭鉱の廃屋を写しとった、インスタレーションの作品が目飛び込んできます。



[三岸好太郎美術館]

展覧会にプラスしていろいろなイベントを行っている当美術館では、学芸員やゲスト講師による土曜セミナーなどを実施しています。



7月の土曜セミナー
「折元立身トーク&パフォーマンス」



4月のオリジナルスイーツ「マカロン」

- オリジナルスイーツデー
10月4日(土)
2月6日(金)
- 土曜セミナー 14:00~
9月27日(土) 11月15日(土) 2月7日(土)
- ミニ・リサイタル 14:00~
11月22日(土) 12月20日(土) 1月24日(土)
2月21日(土) 3月14日(土)

ミュージアム・ショップ

リニューアルオープンしたミュージアム・ショップ。図録やカード、オリジナルグッズなど、お買い求めいただけます。



アルテピア会員募集中!

お友達を御紹介下さい

お問い合わせ TEL 011-644-4025

平成26年度移動美術館のご案内

— 道立美術館コレクション —

道内各地を巡回する移動美術館が、今年度は更別村と足寄町で開催されます。近代美術館・帯広美術館・三岸好太郎美術館のコレクションが公開されます。

- 9月26日(金)~9月30日(火) 更別村社会福祉センター TEL 0155-52-2112
- 10月3日(金)~10月7日(火) 足寄町民センター TEL 0156-25-3188



アルテピア・サロン

私的心のアンテナ考

裏 征子

いくつになっても美しいと感じる心
のアンテナを張り巡らしている。周
い、と自分に言い聞かせている。周
を見渡してみよう。あらゆるところ
に美は存在するのだから。
美について想うとき何よりも最
初に自然ありきと、全てはそこか
ら始まると信じている。まだ眼が見
えて、まだ耳が聞こえて、まだ声を出
して笑うことができる今を心底嬉
しいとおもう。
眼に見えることから限らず季節
の風やその匂い、その温度、自然
は美の使徒であるのだから、何かに
導かれてやってくるそれらのことに
素直な心で向き合いたいと願って
いる。散歩の途中で草むらが露に光
り輝いているのを見つけたとき、陽
を受けて電線の束が光りの川のよ
うに見えるとき、ビルの高い窓がキ
ラツと反射するのを見たとき、厚い
雲間から天使の階段が幾重にも降
りているのを見たとき、それらはシ
スレーの空であり、シヤパンヌの草
むらであり、ブラマンクの大地であ
るかのよう、私の心に寄り添って
くれる。
美を見つけるのは特別なことで
はない。日々の暮らしの中で放たれ
ている光彩を掬いとる心のアンテ
ナは、いくつになっても張り巡らせ
ていたいと私は願っている。

ご入会ありがとうございます

新会員紹介

2014年3月～7月・敬称略

3月

札幌市 越前 優子
" 石川 八恵子
" 木村 京子
" 床井 敏明
" 高橋 則克
" 高橋 佳子
" 佐々木 和則

4月

札幌市 久保 奈都美
" 平岩 博幸
" 伊藤 敬子
" 田中 悦子
" 石川 茂樹
" 藤原 頼亨
" 徳村 美保子
" 藤田 香子
" 加藤 昌子
" 立谷 敬子
" 土岐 恭子

札幌市 矢島 緑
" バックハウス 和子
" 坂井 瑞江
" 橋爪 侑子
" 渡辺 一美
" 高山 ひとみ
江別市 飯野 方人
安平町 加藤 清次
函館市 鈴木 浩子
北斗市 芹澤 幹子
深川市 赤川 海大

5月

札幌市 高田 仁
" 榎本 克之
" 寺井 眞子
" 千葉 洋子
" 武田 ミヤ子
" 西田 智美
" 名畑 美由紀
" 小泉 陽子

札幌市 宮坂 貞子
" 早三 雪子
" 藤浦 敦子
" 鎌澤 惠理佳
" 房田 泉
" 大住 樹芳
" 大岩 本勝彦
" 佐々木 亜矢子
" 木村 俊昭
" 高橋 順子

6月

札幌市 柳澤 かおり
" 畑中 恵美子
" 小張 久美
" 黒川 恵美
" 三浦 龍馬
" 毛利 伸正
" 佐藤 美和
" 巴亦 敬一

札幌市 澤安 村藤 郁子
石狩市 安藤 牧子

7月

札幌市 中村 純子
" 津田 明子
" 田中 敬香
" 堀江 美千子
" 松本 美賀子
" 太田 美喜子
" 若中 景子
" 橘今 透矢子
" 小林 由美子
" 青谷 陽裕美
" 谷口 裕美
小樽市 深澤 春代

法人会員、特別協賛会員 紹介

— ご協力誠にありがとうございます —

*法人会員

サッポロビール(株)北海道本社 北海道銀行 ホテル・ライフオート札幌 中西印刷(株) (公社)北海道私立幼稚園協会
(株)南香園 (株)光映堂シーエーブイ 北洋ビル管理(株) (公財)北海道埋蔵文化財センター 北海道文化放送(株)
トップツアー(株)札幌支店 オンワード樫山福祉共済センター ノースパシフィック(株) 北洋システム開発(株)
交洋不動産(株) (株)札幌北洋カード (株)北海道新聞社 (株)道新文化センター (株)HBA
(株)どうしん厚別販売センター (公財)札幌市芸術文化財団 三菱電機(株)北海道支社 (公財)岡田茂吉美術文化財団
(株)三好商会 北洋ビジネスサービス(株) 大丸藤井(株) 日本通運(株)札幌西支店 北栄保険サービス(株) JR北海道
(株)近畿日本ツーリスト北海道札幌法人旅行支店 岩橋印刷(株) (株)アミノアップ化学 (医法)元氣会札幌整形外科
都市総合開発(株) (社医法)康和会札幌しらかば台病院 (株)ニトリホールディングス 戸田建設(株)札幌支店
(一社)北海道書道協会 (株)宮川建設 小林豊子きもの学院北海道(株) (株)NTTデータ北海道 (社医法)三草会
(医法)溪仁会 北海道交通(株) (医法)札幌ハートセンター

*特別協賛会員

(株)アミノアップ化学 (株)北洋銀行

(2014年7月末日現在・敬称略・順不同)

事務局だより

平成26年度 定時総会の報告

去る5月29日、近代美術館講堂において定時総会が開催され、会長の挨拶に続き議案の審議が行われました。定時総会終了後は会場を1階ロビーに移して、恒例の「つどい2014」が行われました。

吉野会長 挨拶概要

日頃から当美術館協力会の活動に格別なご支援、ご協力を賜っておりますことに心からお礼申し上げます。

昨年は、思い切った政策により経済は少し明るい兆しが見えてきましたが、消費税が引き上げられ、北海道のように大きな輸出産業がないところでは、あまり回復が感じられない状況かと思えます。

そうした中で当会ではボランティアのご尽力の結果、また、会員皆様のご協力によりまして全体的には予定通りの活動を行うことができました。

当会の最大の課題であります財政の立て直しにつきましては、理事会等で検討、実施してまいりましたが、残念ながら大きな成果を得られず、平成25年度決算は基金の取り崩しに依存して決算を終える結果になりました。

一方、当会の希望が取り入れられ、4月1日から売店が2ヶ所から中央1ヶ所に集約され非常に好評であり、今後売店の売上に寄与してくれるものと期待しております。

支出の中で大きな割合を占めている観覧料につきまして、当会の負担軽減の要請活動を行ってまいりました。環境の厳しい面もございますが、ひきつづき活動を継続して行きたいと考えております。また当会の活動の充実と財政健全化には会員増が非常に大きな影響を与えております。

これらを踏まえて運営会議等で、より具体的な改善策を定め取り組んでいきたいと思っております。今後とも会員皆様の一層のご支援をお願いいたします。

議案審議等の概要

議案第1号 平成25年度事業報告、収支決算報告について

報告通り承認可決されました。

事業実施状況については、ほぼ当初の計画通りに進めることができました。(収支決算については表1の通り)

議案第2号 平成26年度事業計画、収支予算案について

原案通り承認可決されました。

事業計画は、基本的に従来から実施している事業がベースになっております。(収支予算については表2の通り)

議案第3号 役員の選任について

役員の任期は2年で本総会を以て満了となり、本総会で役員の選任をすることになります。

原案通り承認可決されました。

報告事項 売店の運営について

今まで2カ所に設置しておりました売店が、美術館側の特設なご配慮により4月1日から1カ所になりました。これを機に会員皆様のご利用を切にお願いいたします。

一般社団法人北海道美術館協力会役員名簿

(新任役員*)

会 長	吉野 次郎	理 事	石黒 勇治	菅 伸之	名畑 節子	監 事	木村 俊昭*
副 会 長	鎌田 昌市		加藤 康夫*	杉本 互	藤井 正治		納谷 信二*
	小林 敬明		金井 英明	谷 紘子	堀 利幸		
	和田 壬三		腰塚 清一	戸井 敏夫			
専務理事	藤井 勇吉		小砂 憲一	長峯 慰子			

(平成26年5月29日現在)

(表1)平成25年度収支決算総括表(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

(単位:円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	合 計	一般会計	売店会計	科 目	合 計	一般会計	売店会計
基本財産運用収入	1,196	1,196	0	事業費支出	33,315,103	7,669,526	25,645,577
特別収入	1,305	1,305	0	管理費支出	7,657,345	7,657,345	0
会費収入	10,099,000	10,099,000	0	特定資産取得支出	1,305	1,305	0
事業収入	27,860,167	1,408,000	26,452,167	他会計への繰入支出	700,000	0	700,000
寄付金収入	0	0	0				
特定資産取崩収入	3,000,000	3,000,000	0				
他会計からの繰入収入	700,000	700,000	0				
雑収入	30,468	30,112	356	当期支出合計	41,673,753	15,328,176	26,345,577
当期収入合計	41,692,136	15,239,613	26,452,523	当期収支差額	18,383	△88,563	106,946
前期繰越収支差額	170,507	130,524	39,983	次期繰越収支差額	188,890	41,961	146,929
収入合計(B)	41,862,643	15,370,137	26,492,506	支出合計(B)	41,862,643	15,370,137	26,492,506
予算額(A)	40,684,000	15,644,000	25,040,000	予算額(A)	40,684,000	15,644,000	25,040,000
差異(A-B)	△1,178,643	273,863	△1,452,506	差異(A-B)	△1,178,643	273,863	△1,452,506

(表2)平成26年度収支予算総括表(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

(単位:円)

区 分	収 入 の 部					支 出 の 部				
	科 目	予算額	前年度決算額	差 異	備 考	科 目	予算額	前年度決算額	差 異	備 考
一 般 会 計	基本財産運用収入	2,000	1,196	804	定期預金利息	事業費支出	7,245,000	7,669,526	△424,526	
	特別収入	2,000	1,305	695	美術振興基金利息	美術活動協力事業費	6,590,000	6,970,035	△380,035	V活動経費、会報・部内報印刷費、 会員録資料等経費
	会費収入	12,045,000	10,099,000	1,946,000	法人、個人会員等年会費	美術講座等開催事業費	589,000	627,201	△38,201	美術講座資料作成費・ つどい経費等
	事業収入	1,400,000	1,408,000	△8,000	美術講座受講料・つどい会費	美術展等開催事業費	10,000	17,460	△7,460	美術研修視察事前研修経費
	寄付金収入	0	0	0		美術優秀制作展事業費	56,000	54,830	1,170	協力会賞の贈呈経費
	雑収入	11,000	30,112	△19,112	普通預金利息	管理費支出	7,583,000	7,657,345	△74,345	運営管理費
	他会計からの繰入収入	1,400,000	700,000	700,000		特定資産取得支出	2,000	1,305	695	
	特定資産取崩収入	0	3,000,000	△3,000,000		当期支出合計	14,830,000	15,328,176	△498,176	
	当期収入合計	14,860,000	15,239,613	△379,613		当期収支差額	30,000	△88,563	118,563	
	前期繰越収支差額	41,961	130,524	△88,563		次期繰越収支差額	71,961	41,961	30,000	
収入合計	14,901,961	15,370,137	△468,176		支出合計	14,901,961	15,370,137	△468,176		
売 店 会 計	売上収入	25,000,000	26,452,167	△1,452,167	売上収入	事業費支出	23,614,000	25,645,577	△2,031,577	仕入、賃金、施設賃借料等
	雑収入	1,000	356	644	預金利息	他会計への繰入支出	1,400,000	700,000	700,000	
	当期収入合計	25,001,000	26,452,523	△1,451,523		当期支出合計	25,014,000	26,345,577	△1,331,577	
	前期繰越収支差額	146,929	39,983	106,946		当期収支差額	△13,000	106,946	△119,946	
	収入合計	25,147,929	26,492,506	△1,344,577		次期繰越収支差額	133,929	146,929	△13,000	
総 計	40,049,890	41,862,643	△1,812,753		総 計	40,049,890	41,862,643	△1,812,753		

つどい 2014

5月29日、当協力会の第31回「つどい」が、総会に引き続き、近美ホールで華やかに開かれました。

1年振りの再会に声を弾ませる人、近美幹部職員や当会役員との交流など、みなさま楽しいひとときを過ごしていました。

今年のアトラクションは、札幌交響楽団のメンバーによる弦楽三重奏。歌劇「カルメン」の前奏曲などを軽快に演奏し、宴をもちあげました。



ぐるっと三館鑑賞ツアー 6月4日～6日

4年目を迎えた解説付きの鑑賞ツアーが開催され、各回とも15名の定員いっぱいの盛況でした。今年は近代美術館の「近美コレクション」からスタート。ボランティア解説員の分かりやすい解説で、神田日勝の「室内風景」や、ジョルジュ・パスキンの「アンドレ・サルモンとモンマルトル」などの作品を熱心に鑑賞しました。

次に有形文化財の知事公館へ。建物の構造や歴史に耳を傾け館内を見学。緑あふれる庭園の野外彫刻を見ながら三岸好太郎美術館へ移動し、喫茶「きねずみ」でティータイム。特製スイーツを楽しんだ後は、所蔵品



展「三岸好太郎の色彩の魅力」を見て回りました。

このツアーは好評のため、今年から年2回開催することになり、今回は9月17、18、19日です。

アルテピア ニュース

ミニ・アトリエ 「におい袋を作ろう!」 ミュージアム・スクール2014

高圧洗浄機お目見え! 春の彫刻清掃 5月30日

近美前庭と知事公邸庭に設置されている彫刻の清掃が美術館、当協力会、彫刻友の会から約25名が参加して行われました。

この日は屋外作業にはもってこいのうす曇り。学芸員から6点の像について詳しい解説を受けてスタートし、班ごとに受け持った作品を約1時間かけて仕上げました。なお今回初登場の高圧洗浄機は、大型ブロンズ像の頭部や台座細部の洗浄に威力を発揮しました。



夏休みに入った7月25日～8月18日まで、毎年恒例のミュージアム・スクールが始まりました。その中でミニ・アトリエの工作体験コーナーでは「折り紙で匂い袋を作ろう」に子どもたちだけでなく大人の単独参加も目立ちました。折り方の図も用意されており、ボランティアの説明を聞きながら、皆さん楽しそうに作業を進めました。最後に5種類の中から好みの香を折り紙の中に入れて完成させていました。



編集だより

- リラ冷えのあとは、偏西風のいたずらによる季節外れの猛暑や大雨、そして記録的な長雨。エルニーニョ現象の影響でこれからは異常気象が予想されるが、本誌をお届けするころには気象が安定し、清々しい秋の訪れを期待している。
- 札幌国際芸術祭2014が、7月19日から72日間のロングラン。みなさまの評価は?
- 当協力会の定期総会が開かれ、財政状態は厳しさを増しているとの報告。スタッフ一同経費節減に努めながら、より魅力のある会報を目指して試行錯誤をつづけている。(Y)

尾張と八雲

この夏、近美では「徳川美術館展」が開催されました。尾張徳川家ゆかりの品々の中、小さな「木彫り熊」に興味をもたれた方もおられたでしょう。この「木彫り熊」は大正12年徳川義親がスイスより持ち帰った土産品です。明治11年尾張徳川家17代目徳川慶勝は、困窮した士族授産のため、道南八雲の地に「徳川家開墾試験場」、通称「徳川農場」を設置しました。義親はのちに、この農場で収穫の途絶える冬期の副業として、先の「木彫り熊」を手本に木彫りの熊を作らせたとのこと。現在道内各地に見られる「木彫り熊」は、この「徳川農場」を発祥の地として全道に広がって行きました。

また「八雲」という地名は慶勝が古事記「八雲立つ 出雲八重垣～」という一首から命名したとも言われています。尾張と八雲、遠く離れた二つの土地が今も歴史という糸で繋がれていることに感動です。(M)

ひとくち
ME